

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年8月21日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	政治経済学部
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2024年9月3日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	カリフォルニア大学バークレー校(日本語名) University of California Berkeley(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	English/English
留学期間	2024年5月～2024年8月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月中旬～12 月中旬 2 学期: 1 月～5 月中旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	45057
創立年	1868 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	日本円	備考
授業料		1011188 円	
宿舍費		998587 円	
食費		円	
図書費		円	
学用品費	23\$	円	
携帯・インターネット費	45\$	円	
現地交通費		円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		39955 円	形態:
渡航旅費		161370 円	
ビザ申請費	185\$	円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	253\$	2211100 円	

## 渡航関連

渡航経路
往路 出発地:NRT 目的地:SFO 経由地:なし 復路 出発地:YYZ 目的地:NRT 経由地:YYC
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ZIPAIR 料金:72881 円 復路 航空会社:WESTjet 料金:88489 円                    ∴合計:161370 円
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:     ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: ZipAir) <input type="checkbox"/> その他(     )
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: International house) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 2)
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
前年度バークレーに行った先輩方複数名からのアドバイスとバークレーに詳しい現地アメリカ人からの評判をもとに寮を選んだ。その際に、国際交流に力を入れたいと感じたため、そういった交流が促進されている環境であるか、また寮の雰囲気や自分のパーソナリティに合っているかなどを特に考慮に入れた。
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
設備等に関して、部屋には机、ベッド、洋服タンス、物置棚など最低限のものが用意されており、それ以外の寝具等は自分で調達する必要があった。シャワーやお手洗い、キッチン共有スペースとなっておりシャワーの温度が安定しないこと以外に気になることはあまりなかった。友人関係に関して話しかければ仲良くなれることが多く、声をかける沢山のチャンスに毎日恵まれている。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 治療なし)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

危険に関する情報は基本的に大学や寮がメールで配信してくれるため、情報不足になることはなかった。周りの友人で被害にあったケースが多かった犯罪は、盗難と車上荒らしであった。盗難に関しては、置き忘れた、放置したものは基本的に盗まれるという覚悟をもっておき、特に公共交通機関を利用している際、出口付近でスマートフォンなどを使用しない、スリにあわないために荷物は必ず視界に入る位置に持つなどを徹底するといふ。また車上荒らしに関して、対策のために基本的に車の中に荷物は残さない、残すとしても外側から絶対に見えない位置に配置するなど徹底するといふ。その他、夜遅くに歩く際は必ず UBER や LYFT を利用し絶対に一人で行動しないことを意識すると危険な状況に出会うことは回避できると感じた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

基本的にインターネットに接続できないというトラブルは発生しなかった。時々、大学内のインターネット全体がダウンしてしまうことがあったが、特にインターネットが原因で困った状況になることはなかった。データ通信に関して、自分は格安無制限 eSIM の MINTmobile を利用していたためギガが足りなくなるという心配はなかったが、中には通信制限に困っている方もいらっやったので、SIM の選択は事前によく調べたうえで言うといふと感じた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

資金調達は基本的にデビットカードの残高を使用していた。中には資金調達のために寮でアルバイトを始めた他国から来た友人もいたが、忙しそうにしていたためあまりおすすめはしない。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

化粧水、乳液などの美容品や薬は現地調達のものだと体質に合わないことがあるので、予備も含め念入りに準備するといふ。留学を開始する半年前ほどから、自分が普段使っている日用品をどのくらいの期間で消費するのか検証を開始し、その分析に基づいて必要な分を適切に持っていけると基本的に困らない。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

application 終了後の 2 月頃に授業料や寮の支払いがあったため、デビットカードで支払いをした。支払金額の関係上、カード会社から decline されることがあるため、それに応じて上限解除の手続き等も行った。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Marketing	マーケティング
科目設置学部・研究科	UGBA
履修期間	SessionA
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 150 分が 3 回
担当教授	Janet Brady
授業内容	マーケティングの基本的知識を学びながら、実際の企業のマーケティング戦略を考案する。
試験・課題等	中間レポート、期末試験、グループプレゼンテーション
感想を自由記入	発言の機会が多く与えられていたため、授業内で最低一回以上は発言すると決めていた自分にとっては最適な授業スタイルだった。マーケティングに関する学習は初めてでわからないことは多くあったが、()グループプレゼンテーションが後半毎回あり、指定されたメンバーと指定された企業に関する事業分析とマーケティング戦略を行った。中にはアメリカでは主流だが、日本人にはなじみのない企業などもあったため、苦戦することも多くあったが、現地の友人からその企業について教えてもらい、理解を深めることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Project Management	プロジェクトマネジメント
科目設置学部・研究科	UGBA
履修期間	SessionA
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が2回
担当教授	Omar Romero-Hernandez
授業内容	ビジネスにおける Project Management の基本的な知識を学び、最終的にチーム内で考案した事業の計画を構想する。
試験・課題等	期末試験
感想を自由記入	<p>全体的に実践的な学習が多く、実際に企業でも採用されているアプリケーションや実際のケースに基づいたシュミレーションがを通して、現実の問題に即座に応用できるような学びとなった。中でも一番に興味深く、実際に役に立ちそうだと感じたものはクリティカルパスの概念を取り入れた事業計画立て方で、効率的かつ現実的な計画の立て方を学ぶことができた。様々なトピックについて一通り学習した後、3~5人グループを作り、自分たちで実際の事業計画やそれに伴うリスクとそのマネジメント方法などを考案しプレゼンテーションを行った。自分が所属したチームが自分以外UGBAの卒業生のみだったためかなりハイレベルな打ち合わせが続き、内容についていくのに苦労したが、その環境の中でも自分が貢献できることを少しでも模索し、自分にしかないアイデアを反映できるに至ったことはかなりの成長につながったと感じた。他の授業と違い非常に難しかった点が、教授の英語の発音の訛りが強く、慣れるまでリスニングに非常に苦労したことだ。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Civil Rights Civil Liberties: Equality & Fundamental Rights	平等と基本的人権
科目設置学部・研究科	LEGALST
履修期間	SessionD
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・ディスカッション形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が4回
担当教授	Kristen Holmquist
授業内容	アメリカ憲法の基本的な仕組みを学習した上で、fundamental rights と 14th Amendment に関する case judgement を扱い、その内容をもとに classification や compelling interests、strict scrutiny について考察を深める。最終的には俯瞰的にそれぞれの case の共通事項や相違点を比較し、現在の憲法システムに対する意見をまとめたり、その知識をもとに新たな case を分析したりした。
試験・課題等	中間、期末対面エッセイ writing
感想を自由記入	自分の学部とは直接関係のない授業であるが、所属ゼミナールの単位互換に必要な内容を満たしているかつ、スケジュールコンフリクトがないのがこの授業であったため、法律に関する背景知識はないが履修することに至った。授業のレベルが桁違いで難しく、英語は聞き取れるのに理解ができない、日本語に翻訳しても背景知識がないと理解ができないといったレベルの授業であり、生徒のほとんどが law major のネイティブで、そのうち数人は既に法関係の職歴を持っていた。またクラスでは唯一の日本人であったため事前に頼れる友人はいなかったが、クラス内で友人を作り、困難を共に乗り越え合った。課題リーディングの量が桁違いで多く、この授業が始まってからは、毎日かなりの時間リーディングをし、毎回の授業に備えた。最初の頃は内容についていけなかったが、録音と文字起こし翻訳を駆使し、徐々に内容を理解できるようになっていった。興味深かった内容としては、14 <sup>th</sup> Amendment が法の下での平等の保護を求めた修正条項だったということもあり、それに関連したジェンダー問題、人種差別の問題となった判決について理解を深めた。そのため、複雑な条件下における平等な人権の保護について裁判所がどう向き合うのか、またその判決に対する反論を読みどういった点が補われていないのかについて分析、考察をすることは非常に興味深かった。期末試験の内容が非常に難しく、それに向けた準備を友人と何度も協力して行ったため、一生の友人を作ることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
Intensive English Practice: Successful Job Search and Interviewing Skills		成功した仕事探しと面接スキル	
科目設置学部・研究科	COLWRIT		
履修期間	SessionD		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義、デスクッション形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が4回		
担当教授	Nora Wald		
授業内容	アメリカ国内だけでなく、海外の会社に apply する際の基本的なステップをトピックごとに扱っていく授業。仕事の探し方やレジュメの書き方、面接の受け方に加えて上級者向けにビジネス環境における効果的な英語の話し方まで取り扱った。		
試験・課題等	毎回の授業内容に沿った課題提出		
感想を自由記入	この留学プログラム終了後、長期間のワーキングホリデーに行く予定があったため、この授業を履修した。授業で扱った内容としては、自己分析の方法、レジュメの書き方、インタビューの受け方や給料に関する交渉の方法まで様々だった。クラスメイトの大多数が中国人を占めていたが、英語のレベルはそこそこにあるクラスだったため、英語でスムーズに会話ができるという生徒が多かった。課題の量に関して若干多いと感じる週もあったが、他の授業の課題と両立が不可能ではない量であったため、継続的に努力をし、課題に取り組んだ。授業自体非ネイティブ英語話者に向けて作られているので若干簡単だと感じてしまうときがあったが、その際は課題に取り組んでよいとの許可があったため、自分で授業への取り組み方を調節できるフレキシブルな環境であった。一番の印象としては、教授が生徒一人ひとりに真剣に向き合ってくれる人柄であったため、クラスの雰囲気は非常によかった。		



## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	留学プログラム出願、選考
	10月～12月	航空券購入(往路)
留学開始年	1月～3月	出願、ビザ申請・取得、滞在先の確保、
	4月～7月	期末試験(Session A)、航空券購入(復路)
	8月～9月	期末試験(Session D)、帰国
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

この留学プログラムは三カ月という短い留学期間でしたが、その分一日一日の充実度合いが今まで経験したことのない想像のつかないものであり、その一つ一つの出来事が自分が持っていた価値観すべてに大きく影響を与えるものとなりました。数えきれないほどの友人に出会い、今までしたことのないようなことに挑戦をし、一度その目まぐるしく変化し刺激の多い日々の生活から精神的にやられてしまったこともありましたが、友人の支えもあって乗り越えることができ、確実な自己成長と自分自身の見直しにつながった最高のプログラムとなりました。そしてこの経験をもとにこれから留学を志す方々へ、自分のこの3カ月の体験を通じて特に知っておいていただきたいことは三点ほどあります。

一つ目が、トップユニバーシティ留学についての特徴です。特にこの留学プログラムでよかったと思えることの一つに、世界中から来た夢や目標に向かってそれぞれの分野で本気で努力している学生と高め合えるということです。これは授業内だけに限った話ではなく、寮で出会った友人や大学内で様々な活動に取り組んでいる学生に出会った際など全ての瞬間について言えることであり、自分が未知であったところまで価値観が広がりました。時にそのレベルの高さから圧倒されてしまうこともありましたが、結果としてそれらの経験全てが自分にとってプラスとなるものであり、自分の目標をさらに高いレベルまで引き上げるきっかけにもなりました。

二つ目が、就職活動との両立についてです。特に3年時にこのプログラムに参加する学生の場合、就職活動との両立を視野に入れないといけない方が多いと思います。実際にこのプログラムに参加して就職活動をしていた周りの三年生の様子を見ると、両立は不可能ではないが、睡眠時間が削られたり、日本時間に合わせて行わなければならなかったりなど苦労しているといった印象でした。実際に今年度プログラムにいた3年生のうち約半分は就職活動と両立し、自分を含むその他半分の学生は、留学後に休学をし、長期インターンや別の留学プログラムに参加する、また帰国後から就職活動を開始するといった方もいました。留学開始時期が3年生で、留学以外のことと両立しないといけないと心配される方もいらっしゃると思いますが、両立する、しないの選択に関わらず、現在の目の前のことに真剣に取り組む、その中で見つけた自分が本当にやりたいことを留学後の行動の選択にできれば、全体として後悔のない結果になると思います。

そして三つ目に、この留学プログラムで終わらせないことが大切だということです。人それぞれ、留学を通じて手に入れたいもの、また結果的に手に入れたものは異なりますが、すべてに共通して言えることが、その経験を次にどのように活かすかという視点を持つことが非常に大切だということです。自分の場合、結果的に留学を通じて得たものは、圧倒的な語学力だけでなく、想像もしていなかった自分との向き合い方や異なる環境での自分らしさの実現の仕方でした。そしてこの環境でさらに深く他者貢献やまた違った自分らしさについて追求したい、具体的に言えば、明治大学や実際に留学プログラム中に取り組んだ日本文化を広める活動を新たな環境でも行い、一人でも多くの方に新たな出会いや価値観を提供すること。また実際の社会において価値提供に繋げるにつなげるというのが自分にはとっての次のステップになります。こういった留学後のビジョンを簡単にでも持つておくことで目標達成の効率化やさらなる成長を許容できる余裕にもつながるのではないのでしょうか。

最後に一つ、個人的にもっともこの留学プログラムを充実させるのに貢献したと思うことが international house を寮として選んだことでした。数えきれないほどの友人に出会い、数えきれないほどのドラマがある毎日を過ごして、一人の人間として他者との関わり方について真剣に向き合い、様々な成長につなげることができました。この環境があったからこそ、留学という枠組みを超えた一生の財産を手に入れることができ、自己成長や自分の価値観の変化に大きく影響を与えました。この経験をもとに、次に留学に行く際も必ず、国際交流が推進されているか否かという判断基準は重視したいと強く実感しました。